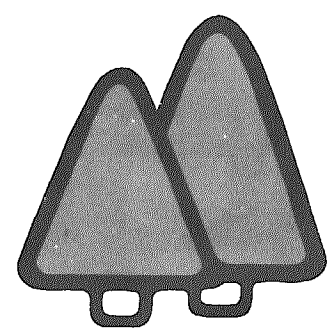


新年度の町づくり一般会計66億円の使いみち



平成八年度 一般会計当初予算

66 億円

町民1人あたりでは
27万2244円

(2月末日現在)
の人口で計算

(年度)	町税	予算額
平成8	28億2108万円	66億円
7	26億6899万円	64億円
6	26億1819万円	65億円
5	24億3798万円	62億2000万円
4	21億7907万円	57億5000万円
3	20億1311万円	53億3000万円

一般会計予算…前年度とくらべてみると	平成7年度	平成8年度
◆総額	64億円	66億円
前年度比	-1.5%	+3.1%
◆町民1人あたりでは	26万5759円	27万2244円
◆自主財源	37億4211万円	37億5039万円
歳入の中での割合	58.4%	56.8%
◆町税	26億6899万円	28億2108万円
歳入の中での割合	41.7%	42.7%
町民1人あたりでは	11万829円	11万6367円
◆町債(借金)	8億3150万円	9億5750万円
歳入の中での割合	13.0%	14.5%
◆地方交付税	9億5000万円	9億5000万円
歳入の中での割合	14.9%	14.4%
◆人件費	18億1560万円	18億6011万円
歳出の中での割合	28.4%	28.2%
◆公債費(借金の返済)	6億3666万円	6億9142万円
歳出の中での割合	9.9%	10.5%
◆普通建設事業費	19億5171万円	18億8536万円
歳出の中での割合	30.5%	28.6%

町へは毎年、町民の皆さんからいただいた町税など多額のお金が入ります。それらのお金は町民の皆さんのために有効に使わなくてはなりません。学校教育、老人福祉、道路・排水の整備など。これらのお金の入り方と使いみちの計画を予算といいますが、平成八年度予算が町議会の三月定例会で承認されたのでお知らせします。

前年度より3.1%増に

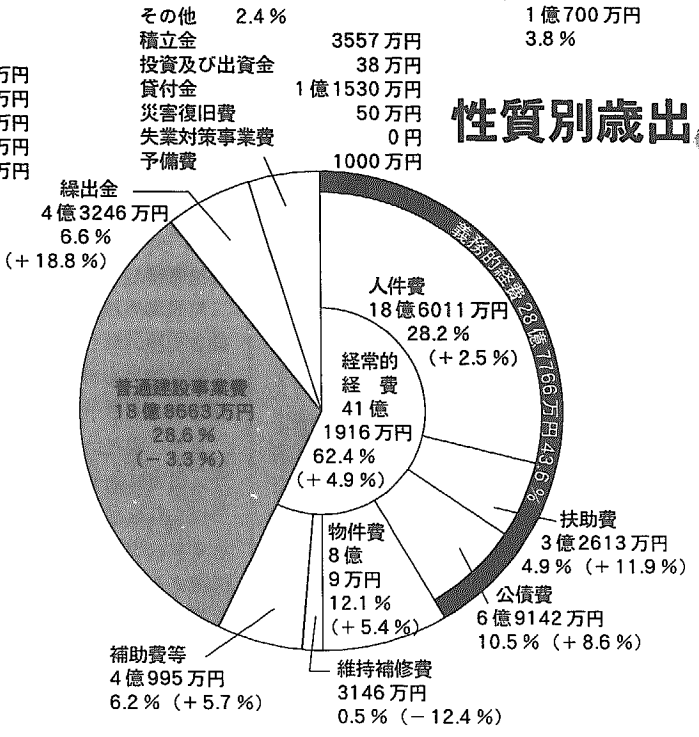
一般会計予算とは、町民の皆さんからいただいた町税や国県からの補助金などを町がどのように使うかを年度初めに決めたものです。その年度(4月1日)翌年3月31日)の町政の基本となります。

年度途中で事業を変更したり、予定した町税や補助金が増減した場合は補正予算が組まれます。(年度初めに決めた予算は、補正予算に対し、当初予算と呼びます。)

平成8年度の一般会計当初

歳出

性質別歳出



予算は、総額66億円で、前年度より2億円、3.1%の増となっています。町民一人当たりでは27万2244円となり、前年度より6485円増えています。

性質別に予算を見ると、人件費や公債費(町の借金の返済)物件費などの必要不可欠な経費(経常的経費といいますが62.4%を占めています)。

道路や学校などの各種施設を建設するための費用である

自主財源の割合は57%

歳入

歳入では、町税を28億2108万円と見積りました。前年度より1億5209万円の増です。町税のうち町民税は13億1230万円(前年度より5080万円増)、固定資産税は13億6560万円(前年度より9819万円増)を見込みました。

繰入金、町の貯金である基金を取り崩したものの、5億3032万円を計上しました。このうち都市整備基金から1億8000万円、財政調整基金から1億5000万円などを繰り入れます。分担金及び負担金はほとんどが保育料です。財産収入はほとんどが町の貯金である基金の利子。諸収入は商工費貸付金の元利収入や預金利子などです。以上が町

普通建設事業費は18億8663万円で、前年度より6508万円、3.3%と減少しました。今年度の事業として大きなものは、立小小学校特別教室増築事業などです。

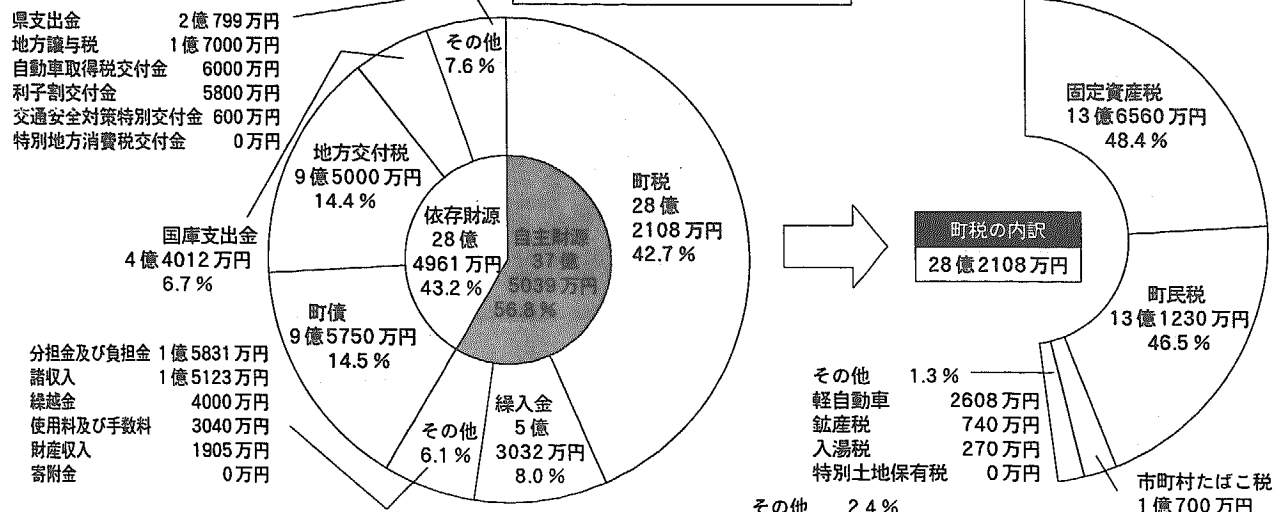
継続事業としては町道整備や宮のり木場城公園施設整備事業、うるおいロード環境整備などの事業、農村総合整備事業などがあります。

依存財源は、前年度より1億9172万円増の28億4961万円です。このうち、地方交付税が9億5000万円、国庫支出金が4億4012万円、県支出金が2億799万円、地方譲与税が1億7000万円と見込まれています。

このほかどうしても必要なものは借金しなくてはなりません。これが町債で9億5750万円、前年度より1億2600万円増えました。町債の残高は、平成八年度末には69億2296万円になる見込みです。

歳入

66億円の内訳



歳出

